

令和 7 年 10 月 20 日

北勢線対策検討特別委員会
委員長 片松雅弘様

東員町議会議員 大谷勝治

研修報告書

研修期間	令和 7 年 10 月 9 日 (木) 午後 1 時 30 から
研修 (視察) 先	東員町役場 2 階 委員会室
目的 (テーマ等)	北勢線対策検討特別委員会事前質問書における経営数値
参加議員名 (複数の場合)	北勢線特別委員会 6 人
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

三岐鉄道北勢線(2019 年度)事前質問書における経営数値

項目	金額(円)	備考
営業収入	390,000,000	主に運賃収入などの収益
営業費用	793,800,000	運行・保守・人件費など
営業損失	約 403,800,000	赤字額(費用－収入)

営業収支 403、800,000 円の赤字

この数値は、営業損失が約 4 億円に達していることを示しており、車両更新や設備投資に対する財源確保が極めて困難な状況であることを裏付けます。

- ・ 「営業収入が約 3.9 億円に対し、営業費用が約 7.9 億円。赤字幅が 4 億円を超える中で、車両更新の財源をどう確保するのか」
 - ・ 「営業費用の中に、老朽車両の維持費や修繕費がどれほど含まれているか」
 - ・ 「この赤字構造を前提に、更新計画の優先順位や実施時期をどう判断しているか」
- ・ たとえば上下分離方式は、鉄道の施設所有と運行を別々に分ける方式で、施設の維持管理を効率化し、運行事業者は安全で金属疲労のない車両の導入や運行に専念できる。
- ・ 北勢線では上下分離方式は財政負担軽減の有効な手段となりうるとおもいます。
- ・ この方式を活用することで、車両の安全性確保や更新計画の具体化が進み、持続可能な運営と安全な車両運行の両立が期待される。
- ・ この内容は、現在の経営赤字や助成金制約の中で、効率的かつ安全な鉄道運営を継続するための重要な検討ポイントとなります。

以上